

不登校児童生徒 アプリで相談体制を

原 裕司議員

アプリでメンタルヘルスの状況把握

教育部長



問 学校やクラスになじめない。また、いじめなどによる不登校児童生徒の推移は。

答 令和4年度は小学校児童が36人、中学校生徒が80人。5年度は小学校児童が55人、中学校生徒が94人だ。

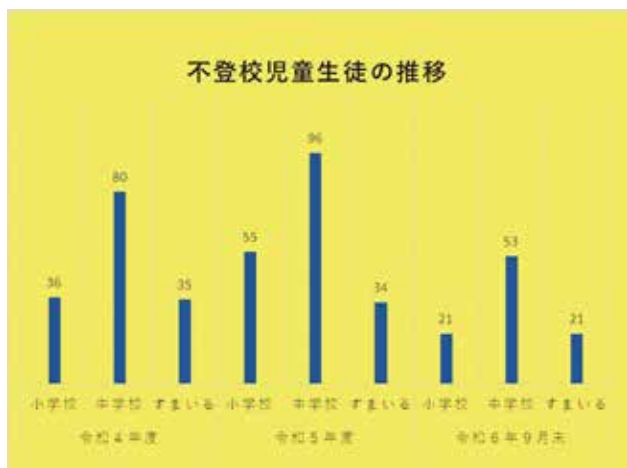
問 不登校児童生徒を受け入れている適応指導教室「すまいる」の利用状況は。

答 6年度は10月31日現

在で21人が利用している。

問 「すまいる」に通えない不登校児童生徒が、約53人いる。引きこもり状態となる前に、悩みなど気楽に相談できる窓口が必要だ。相談体制の状況は。

答 学校以外の相談窓口として、「すまいる」等、相談窓口の一覧を学校ガイドブックに掲載し、小中学校の入学の際に保護者に配布し周知している。



▲不登校児童生徒の推移

問 GIGAスクール構想にも関連するが、子どもたちの悩みを気楽に相談しやすいアプリやオンラインシステムが有効だ。デジタルツールの導入は。

答 タブレット端末には、アプリ「ロイロノート」が組み込まれている。児童生徒は、アプリ内にある「心の健康観察」を毎日学校にオンラインで報告することで、児童生徒のメンタルヘルスの状況を把握し、心の問題の早期発見に繋げ、その日の指導に活かしている。

問 ICTの活用は、各学校間で格差が表れている。児童生徒の学習機会の平等を保障する観点から、学校でも自宅でもICT活用の習慣化を実現すべきでは。

答 教育長をはじめ、教育委員、全小中学校長で構成する小中学校連絡調整会において、ICT活用の日常化を図るため、積極的にICT機器の利用を奨励している。今後も、ICT支援員を活用し日常化を図っていく。なお、一部の学校を除きタブレット端末を自宅に持ち帰っている。

問 ICTを活用するうえで、教員の指導力不足も挙げられている。研修等の実施状況は。

答 愛西市小中学校教職員会ICT部会における研修会のほか、ICT教育指導員が年2回、市内全教職員の中から希望者を募って研修会を実施している。また、ICT支援員が各学校を週に一回巡回し、授業の進め方やアプリの効果的な使い方などを指導している。

2025/2 愛西市議会だより 16